



# 安心の環

交流を目的とした場所は多く存在するが、「ただ、共にいる」というだけで安心が生まれる空間は少ない。また、現代の地域の交流は世代ごとに分離され、お互いの存在が見えにくくなっている。その結果、安心はみんなで育てるものではなく、個人で確保するものとしてとらえられるようになってきている。本計画では、世代が一方に支えるのではなく、お互いに見守りあうことで「安心が循環する」集会所を提案するものである。

子供が元気に遊んでいる姿や声は、その場に日常の気配をもたらして、大人にとっての安心となる。高齢者は集会所に足を運ぶことで、多様な世代の存在に囲まれて孤独感が和らぎ、安心が生まれる。そして、子供はたくさんの人の気配に囲まれることで見守られているという感覚を得て安心する。このようにして生まれる安心感は、特定の世代から一方的に与えられるものではなく、世代を巡りながら地域の中を循環していく。

集会所では、緑を人々が囲み、あるいは緑を通して過ごす空間にすることで自然が視界に入るように設計を行った。緑の周りでは会話が生まれ、緑越しには子供の遊んでいる姿、話している姿がみられて、お互いの存在を意識できる距離感が安心の土台となっている。また、目線を合わせやすい高低差を設けた。見線が交差しやすいことで、管理や監視ではない、自然な見守りができるようにした。このような設計によって、緑を介して、人の存在や気配が重なり合う中で、世代間に安心が生まれる「きっかけ」となる集会所を目指した。



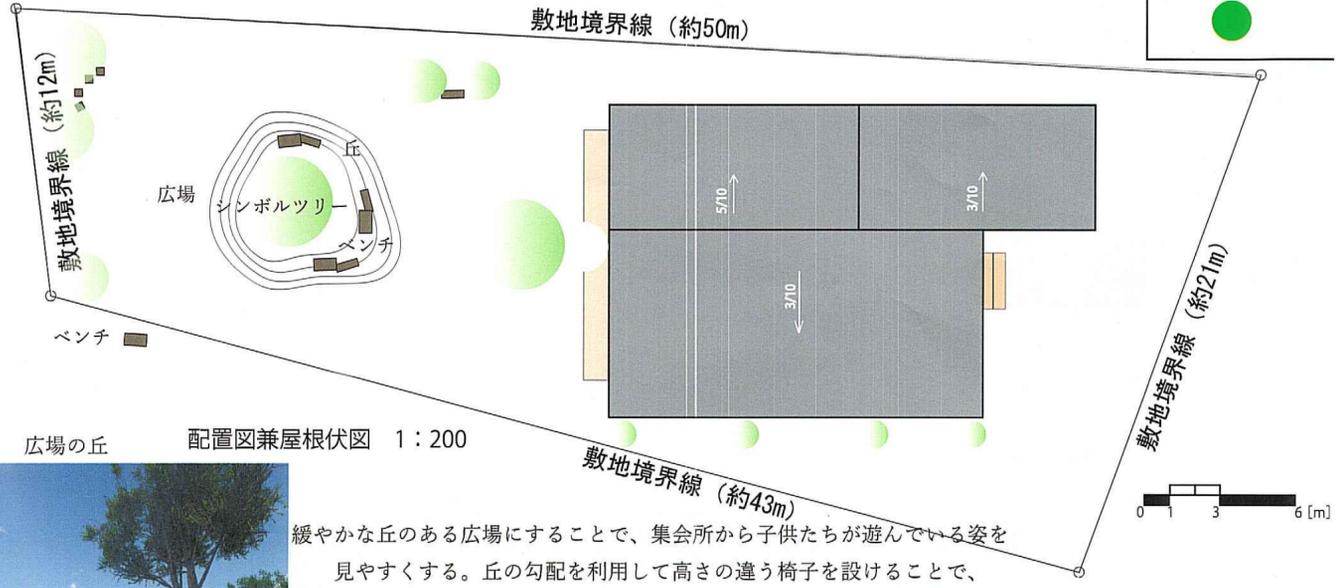
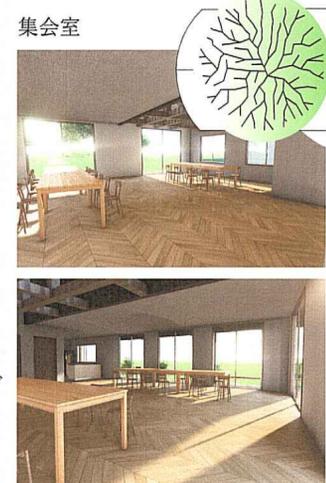
**南側ウッドデッキ**  
歩道向きにいろんな人たちがそれぞれ楽しく話ができる。道を歩いている人たちも集会所が気軽に利用できる、安心できる場所だと感じる。ウッドデッキに座って、ひさしから伸びた柱につけた机でゆったりとできる。



**西側ウッドデッキ**  
高さの違うベンチを木の近くに設けることで、大人と子供で目線が合いやすいようにした。ベンチは、木の周りをすべて囲ってしまわず、空気をすることで車いす利用者の方も一緒に目を合わせて交流をすることができる。

**建築概要**

床面積	
・集会室	74.78 m <sup>2</sup>
・キッチン	10.98 m <sup>2</sup>
・トイレ	7.87 m <sup>2</sup>
・倉庫	4.35 m <sup>2</sup>
・玄関廊下	18.4 m <sup>2</sup>
・巡回管理員室	10.98 m <sup>2</sup>
・その他	12.43 m <sup>2</sup>
合計面積	148.79 m <sup>2</sup>
外壁仕上	木質系サイディング
屋根材	スレート屋根材
構造	木造



緩やかな丘のある広場にすることで、集会所から子供たちが遊んでいる姿を見やすくする。丘の勾配を利用して高さの違う椅子を設けることで、世代間で目線を合わせてコミュニケーションをとりやすくした。また、丘はなんだか座りたくなる、寝転がりたくなる。そのため、緑のなかでリラックスができ、人々が憩い、交流ができることを意図した。

